

スウェーデン語専攻

スウェーデン語の習得に強い意欲をもち、それを駆使してスウェーデンの言語・文学・社会・歴史のいずれかを積極的に探求しようとする人。



カール・フォン・リネーのハンマルビー別邸(ウップサーラ郊外)にて

と思います。

北欧を実地体験して理解する手段として留学や現地での夏期語学講座参加も大いに考えられましょう。デンマーク語を専攻する学生の場合は、デンマーク政府の奨学金(9~10ヶ月間)による国費留学生として、毎年日本から5名デンマークに留学できますが、本学からは1~2名が合格しています。また、2・3年生のときにデンマーク政府の短期奨学金(2週間)を得て、デンマーク語の夏期講座に参加する学生も毎年3~4名います。さらに私費でフォルケホイスコーレという自由な学校に半年間、あるいは1年間留学する学生も若干名、また、夏季に私費でフォルケホイスコーレにおいてさまざまなコース(デンマークの文化と言語、工芸、ダンス、音楽など)に参加する学生も多数います。

一方、スウェーデン語専攻でも、私費になりますが、主として3年次になると8月中旬から翌年6月中旬までフォルクフグスコーラに留学する学生が多くいます。また、毎夏開催される約3週間のサマーコースに大学の夏休みを利用して参加し、スウェーデン語をブラッシュアップする学生もいます。コースはスウェーデン政府の海外スウェーデン語教育支援機関Swedish Institutetにバックアップされているため、短期とはいえ内容は充実しています。ところで、本学のスウェーデン語専攻は同機関より日本における長年のスウェーデン語教育・研究を高く評価され、「2007年スウェーデン語教育・研究大賞」を授与されました。

なお、本学はデンマークのコペンハーゲン大学ならびにスウェーデンのイエーテボリ大学と学生交流の協定を結んでおり、毎年、両大学へ若干名の学生が留学することができます。また、2010年には南デンマーク大学人文学部と、2017年にはストックホルム大学アジア・中東・トルコ学部と部局間協定が結ばれ、留学先の幅がさらに広がりました。

卒業生はメーカー、商社、金融機関、旅行社、マスメディア、北欧資本の大企業、公務員、教育研究機関、北欧各地の日本大使館や駐日の北欧の大使館などで活躍しています。また、卒業後さらに研究を続けたい人は本学の大学院へ進学することも考えられましょう。

みなさんが、今後日本における北欧学の最先端の役割を担うことを期待しています。

「ゴダー」 「ヘイ」 Goddag! Hej!

(より日常的な挨拶)

学生の声

3年 寺西 萌

みなさんは、スウェーデンという国を聞いてイメージすることは何かありますか? 家具メーカーのIKEAや最近ではデザイナーのLisa Larssonさんなど、実はスウェーデンの文化は思っているよりも私たちの生活に浸透しています。

スウェーデン語専攻では、一年生と二年生のうちに基本的な語学力を身に着けます。二年間しっかりと勉強することで、英語でいうところの高校卒業レベル程度まで習得できるようになります。もちろん、二年生までに語学的なことだけでなく、スウェーデンを始めとした北欧の社会システムや文化についても学びます。

三年生からはそれぞれが興味を持った分野を研究していくために、社会、歴史、文学、言語の四種類のゼミに分かれていきます。研究を進めていくうえで、三年生からは新聞や学術文献等を読んでいくので、一、二年生の間で培った基礎がいかされていきます。

また、多くの学生は、三年生の夏から約一年間スウェーデンに留学します。私の場合はイエーテボリ大学に交換留学生として派遣されますが、多くの人はfolkhögskola(フォルクフグスコーラ)という学校に留学し、音楽や芸術など自分の好きなことを学びながら、スウェーデン語のスキルを磨いていきます。

もし、スウェーデンについて少しでも関心があるなら、スウェーデン語専攻は最高の環境だと自負しています。ですので、将来皆さんが格致日新し、興味ある分野を学べることを願っています。



留学体験記

4年 向 梨渚

期待と不安を胸に、重いスーツケースを転がしながら、森の中の学校へ足を踏み入れた日のことを、今でも鮮明に覚えています。

私は2015年の8月から10ヶ月間、アリングソースという町の郊外にあるフォルクフグスコーラに私費で留学しました。フォルクフグスコーラは、スウェーデン国内に約150校ある成人教育機関で、様々なコースを扱っています。私はメディアコミュニケーションというコースを選択し、写真、映画、ジャーナリズムやグラフィックデザインを学びました。授業も教材も全てスウェーデン語で、初めは不安でしたが、毎日勉強し、先生や友人に支えてもらい、ついていくことができました。休日は、映画鑑賞、お菓子作りや散歩をしました。

私が留学生生活を満喫できたのは、豊かな自然とあたたかな人々のおかげでした。スウェーデンは「森と湖の国」と言われています。学校の敷地内にも森と湖があり、校舎から一歩出れば自然に包まれ、穏やかな気持ちになりました。また、留学先の人々は朗らかであたたかく、私のスウェーデン語にいつも耳を傾けてくれました。暗くて寒い冬も、友人たちと過ごせたので、心細さを感じたことは全くありませんでした。

10ヶ月間は長い夢のようでした。楽しいことも辛いこともありましたが、スウェーデンの自然、人々がゆっくりと流れる時間を恋しく思います。みなさんもスウェーデンを肌で感じる体験をしてみませんか。

